

# ヒスイ文化研究所

## 【目的】

昭和61年、63年、平成2年に行われた計3回の「ヒスイシンポジウム」以降、長者ヶ原遺跡保存整備事業に伴う発掘調査によって、縄文時代中期のヒスイ加工と交易の拠点集落の様相が解明されました。また、全国各地の発掘調査事例によりヒスイの出土例も相次ぎ、更にはフォッサマグナミュージアム（糸魚川市博物館）での自然科学的研究の進展などにより、着々と研究成果が蓄積されてきました。

しかしヒスイの社会科学研究や学術的・組織的研究が立ち遅れていることから、研究成果の集約と研究課題の解明のため、総合研究機関としてヒスイ文化研究所が平成14年3月に設立されました。

## 【効果】

ヒスイの自然科学と社会科学の総合研究による学術的な解明  
ヒスイ原産地やその加工遺跡の所在を特徴とする当地方の地域性の明確化  
調査、研究成果の公開、情報発信  
当地方の活性化

## 【研究内容】

人間はどのようにしてヒスイに出会い、どのようにして加工して交易したのか。そして、ヒスイやその玉にどのような価値を見出して求めたのか。このような加工技術や取引システムはもちろん、その背景となった社会や精神などを探求するための調査研究を行います。調査研究の主体は研究所の研究者によりますが、運営委員会による調査、研究方針に基づいて所外の研究者や研究機関と共同研究を積極的に進めています。

### 過去の活動実績

- ・北海道、東北、関東、中部地方のヒスイ製品の資料集成
  - ・北陸北東部における縄文～古墳時代のヒスイ製品の資料収集、北陸中西部における縄文時代のヒスイ製品の資料収集
  - ・玉類石材の産出状況調査
  - ・所報の刊行（1～4）
  - ・ヒスイ文化フォーラム2003、2005への協賛
- ### 今後の活動予定
- ・東海、関西以西における縄文時代以降のヒスイ製品の資料集成
  - ・北陸地方の弥生～古墳時代のヒスイ製品の資料収集
  - ・玉類石材の産出状況調査
  - ・所報の刊行
  - ・ヒスイ文化フォーラム2007への協賛

【構成員】

顧問	森 浩一（もり こういち）	同志社大学名誉教授	考古学	
参与	甘粕 健（あまかす けん）	新潟大学名誉教授	考古学	
	小林 達雄（こばやし たつお）	國學院大学教授	考古学	
	坂詰 秀一（さかづめ しゅういち）	立正大学教授	考古学	
	寺村 光晴（てらむら みつはる）	和洋女子大学名誉教授	日本考古学 - 祭祀、 玉生産	
	並木 正男（なみき まさお）	日本宝飾文化研究所代表	宝石学	
運営委員会	運営委員長 土田 孝雄（つちだ たかお）	長者ヶ原遺跡友の会会長	宗教社会学、郷土史	
	運営委員	池原 静雄（いけはら しずお）	糸魚川市文化財保護審議会会長	地理学、郷土史
		蛭子 健治（えびす けんじ）	元新潟県高等学校教諭	国文学、郷土史
		小野 健（おの けん）	工学博士	自然史
		土田 孝雄（つちだ たかお）	長者ヶ原遺跡友の会会長	郷土史
		小松 敏彦（こまつ としひこ）	糸魚川市教育委員会教育長	
		山岸 欽也（やまぎし きんや）	文化振興課課長、長者ヶ原考古館館長	
村井 康（むらい やすし）	フォッサマグナミュージアム館長			
研究員	茨木 洋介（いばらき ようすけ）	フォッサマグナミュージアム学芸員		
	今尾 一枝（いまお かずえ）	奈良芸術短期大学講師		
	勝部 衛（かつべ まもる）	玉湯町立出雲玉作資料館館長		
	木島 勉（きじま つとむ）	長者ヶ原考古館学芸員		
	関川 尚功（せきかわ ひさよし）	奈良県立橿原考古学研究所資料室長		
	竹之内 耕（たけのうち こう）	フォッサマグナミュージアム学芸員		
	藤田 富士夫（ふじた ふじお）	富山市埋蔵文化財センター所長		
	野村 崇（のむら たかし）	日本考古学協会会員		
	宮島 宏（みやじま ひろし）	フォッサマグナミュージアム学芸員		
	門田 誠一（かどた せいいち）	佛教大学助教授		
	山岸 洋一（やまぎし よういち）	長者ヶ原考古館学芸員		
	藁科 哲男（わらしな てつお）	京都大学原子炉実験室文部技官		
共同研究員	若干名			
事務局	事務局長 山岸 欽也（やまぎし きんや）	文化振興課課長、長者ヶ原考古館館長		
	事務局	木島 勉（きじま つとむ）	長者ヶ原考古館学芸員	
		山岸 洋一（やまぎし よういち）	長者ヶ原考古館学芸員	
		田村 公一（たむら こういち）	文化振興課主任主事	

